

新潟大学留学生センター紀要発行にあたって

皆様のお力添えによって、新潟大学留学生センター紀要第2号の発行を迎えることが出来ました。内容も留学生センターの実際の教育現場で経験を通して得られた貴重な内容の論文が増してきたように思います。1997年4月に省令施設として設立以来留学生センターも満3年を経過しようとしています。本学には、約300名の留学生が、学んでいます。目的はそれぞれ異なるでしょうし、また、大学院は入学に春と秋の入学もあり、入学時期も異なります。また、分野によっては、余り日本語を必要としないかもしれないし、日本語が必要不可欠な分野もあると思います。このような多種多様な留学生を対象に日本語教育をしているのが留学生センターです。また、留学生の学習、生活などの相談にもものっています。特に、大学院入学前の日本語教育（予備教育）については、日本語が大半は全くの初級者を相手に、朝から夕方まで、悪戦苦闘しているというのが現実です。だからといって、留学生教育の基礎研究を怠るわけにはいきません。最近、国立大学の独立行政法人化論など大学の改革が進む中で、ともすると教育を重要視するあまり研究活動がなくても教育は独立し得るとの議論があります。もちろん教育は大学においてもっとも大切です。同時に、大学における教育は、研究に裏打ちされたものでなくてはならないことは、今も昔も変わらないように思います。

本紀要は、留学生センターの教育に携わる方々の、研究の成果を公表するためのものです。皆様のお役に立てれば幸いです。さらに皆様のご批判・ご教示をいただき。より良いものへと発展させていきたいと思っています。

平成12年3月

新潟大学留学生センター長

仙石正和